

第 108 回 国立大学法人新潟大学経営協議会 議事概要

- 1 日 時 令和 3 年 1 月 21 日 (木) 13 時 15 分～15 時 50 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 構成員 15 名：
牛木学長，川端委員，小久保委員，坂本委員，澤村委員，末吉委員，
成田委員，伊藤委員，岩田委員，齋藤委員，神保委員，高橋委員，
三輪委員，森委員，(欠席：福田委員)
オブサーバー：
塚本理事，富田特命理事，田代監事，逸見監事

4 議事概要について

第 107 回 (令和 2 年 11 月 19 日) の議事概要が確認された。

5 審議事項

(1) 中期目標・中期計画の変更について

中期目標・中期計画の変更について，資料 1 に基づき審議が行われ，原案のとおり承認された。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，■：本学側の発言]

※意見，質問なし

(2) 国立大学法人ガバナンス・コードの本学の適合状況について

国立大学法人ガバナンス・コードの本学の適合状況について，資料 2 に基づき審議が行われ，一部文言の修正を行うこととし，承認された。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，■：本学側の発言]

○・事前に意見を提出したが，それらについては，適切に対応いただいた。本日 2 点申し上げたい。1 点目は，エクस्पラインする項目が 11 あるが，当初想定していた数より多かった。

また、その中身を見みると、中期的な財務計画、総合的な教職員の人事方針、ダイバーシティ、法人経営を担える人材育成など重要なテーマであり、ガバナンス・コードに照らして、新潟大学の現状をしっかりと評価し、課題として認識したとのことだから、このガバナンス・コードへの適合状況の調査は、大変意味がある調査になったと思う。11の項目については、現在の中期計画の中で対応するとのことだが、経営協議会として関心を持つ項目があるので、コンプライするにあたって検討したことについては、適当であれば、是非経営協議会でも議論させていただける機会が欲しいし、経営協議会としても議論に参加しながら、コンプライしていきたい。2点目になるが、各コンプライする項目については、時期を明示しているが、8ページの原則3-3-4にある大学に総括理事を置くかどうかの検討については、時期が明示されていない。私自身は、大学に総括理事を置くことについては、現時点ではポジティブではないが、検討をいつまでに行うことについて、時期を明示していないのは、特段の理由があるのか伺いたい。

- ・エクспレインする項目が11あったことは、多かったと思っているが、このガバナンス・コードの適合状況調査を機会に、大事なポイントをきちんと押さえておきたいとの思いで、厳しく見て、あえて残した項目もある。総括理事の部分については、学長就任時に検討を行い、現在の体制では不要と判断し、現在に至っているが、不要であれば不要との議論の必要はあるので、年度を記載したいと思う。
- ・総括理事の件については、学長選考会議でも議論されており、学長の発言どおりだと記憶しているが、学長に事故あるときの職務代理が、はっきりしていれば、総括理事を置かないことについては、大きな問題にはならないと思う。ただ、総括理事についての議論を行うとのことであれば、いつまでに行うとの時期の記載はあってよいと思う。
- ・学長に事故あるときの職務代理については、役員会で決定しており、総括理事を置かない現状としては、決定に基づいた職務代理者が職務を行うことになる。
- ・経営協議会と役員会の位置づけについてだが、役員会は業務の執行を行い、経営協議会は外部から業務に関しての監視を行い、適切な助言を行うことが機能だとすると、ガバナンスの鍵となるのは、経営協議会の構成員をどう選定していくかということになると思う。執行から独立した機関として、ガバナンスをしっかりと行うには、どのようなスキルが必要

かを明確にして、そこにどのような人物を登用していくかを、独立性を持った形で選定していく過程が今後必要になると思う。新潟大学として先を見ていくとすると、経営協議会の構成員の選定には、出席率や貢献度などを勘案して選考する過程が、ガバナンスとして、今後必要になると思う。

- ・ 経営協議会の構成員の選考過程については、今後意識して議論していきたい。
- ・ 学長選考会議の義務として、議論を行うことを規則上明確にしている。また、時期としては、来年度の秋頃に学長選考会議として総括理事の必要性について議論を行うことを考えている。まだまだ、他の大学では議論が行われていないようであるが、新潟大学としてどのようにするかは、今後検討する課題だと考えている。
- ・ 総括理事については、学長選考会議の検討時期と合わせて、令和3年度に議論をするとのこととしたい。

(3) 新潟大学将来ビジョン 2030 について

新潟大学将来ビジョン 2030 について、資料3に基づき審議が行われ、意見を伺った。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言， ■：本学側の発言]

- ・ 教育のこととなるが、学生の一言から、学生が感じている講義の内容と教員が長年の研究や授業の改良の中から学生に伝えたい内容にギャップがあるのではないかと考え、ギャップを埋めるために、学生と教員でシンポジウムを行ってみた。結果、多くの学生や教員に参加いただき、大変好評のうちに終り、そこからカリキュラムの作り方を変えていくことにもつながった。学生は、教員からすばらしい話を聞きたいとの希望をすごく持っており、学生と教員は常に近いところに存在しているので、学生と教員とで、なにかを協同して行なう事も教育として大切だと思う。
- ・ 学生が研究をしたいという気持ちは、教員の姿を見て起こることだと思う。教員の姿を見て、教員が生き生きとしていることが、学生が大学というものに惹かれる要素になると思う。先日、企業訪問をした際に、研究留学した社員の方と話したが、帰国した後も留学先

から、クリスマスカード等が届き、同窓会の意識を非常に強めてくれるとの話を聞いた。留学生もそうだが、卒業生も含めて、新潟大学とのつながりを強めていくことも必要だと思う。

- ・NHK で新潟大学の学生が学生同士をオンラインでつないで、相談事を行っているとのニュースがあったが、柔軟な発想の中で自分たちなりに色々を探っているのだなと感心し、新潟大学でも夢を語れる何かがあるとのポテンシャルを感じた。このビジョンの中にも、学生のニーズに対応する流れが含まれるようにしていただきたい。
- ・ビジョンとは、どのような大学になりたいかということであり、それをどのように表わすかとのことになる。資料を見ると6つのビジョンに分かれているが、20年後、30年後の新潟大学の将来を考えると、何を一番危惧するかといえば、18歳人口が少なくなって、優秀な学生が来なくなり、総合大学が成り立つのかということである。また、県ごとに一つ、総合大学が必要かとの環境にもなると思う。良い大学であるためには、いかに優秀な学生や教員を集めるかが決め手となり、その結果として、教育研究のレベルが上がり、産学連携、国際化等と結びついていくと思う。新潟大学も色々な高校と関係を構築して、優秀な学生を集め、そして優秀な教員を採用していくことが、存続の鍵になると思う。新潟大学が生き残っていくための観点から、更に内容を検討していただきたい。
- ・学長の発言にもあったが、時代の変化が大変早くなっており、企業などにおいても、今までの常識が通用しなくなり、試行錯誤を繰り返している状況になっている。今の社会に何が求められているか、どういう学びが必要なのかということも、試行錯誤をしていく時期になると思う。そういう時代だからこそ、学ばなければいけないとの欲求があらゆる世代から生まれてくると思う。そのニーズをしっかりと提供できるような大学教育に、臨機応変に対応していくことが学びを提供する側にも求められてくると思う。また、NHK のニュースにあった学生のように、独立心を持って動ける学生を育てるとするのは、大事なことだと思う。状況を見て、自分ができることは何なのかを、学びの中で、キャンパスの中で培っていくことも、大事なポイントだと思う。色々なところでリカレント教育の話があるが、どのような人でも、どのような環境であっても、専門的な学びができる環境を作っていくことが大事だと思う。このコロナ禍でオンラインでの学習環境がスムーズに導入されたが、例えば、子育てをするシングルマザーの方が学びたいとの状況もあるかと思う。子

育てをしながら学びたいといった、学びの扉をどんな環境でも閉ざさないといったことが大事だと思う。それは、教職員も同じで、どんな状況であっても色々な視点が入ることが大事で、決まった時間に働くといった状況が本当にいいのか、変化をサポートする体制を整えてこそ、はじめて学びの場、職場を提供できるといったところもあると思う。将来ビジョンにある、ライフイノベーションという言葉は、すごく良い言葉であり、時代が変わる中で、人生のとらえ方、人生のプランニングとか、今までの常識とは異なってくるものを新潟大学が革新的なものを提供して、あらゆるところに合わせられる大学であるとのことを全面的に打ち出してほしい。時代が変わるからこそ、時代に左右されない大事な部分も出てくると思うが、それは、新潟らしさ、新潟独自のものの中にヒントがたくさんあると思うので、変化もするが、根幹では大事なものもしっかりと追及している新潟大学の強みをニュアンスとしてちりばめられるとよいと思う。

- ・何を盛り込むべきかについては、前回発言させていただき、それを受け止めていただいたと感じている。今回は、ロジスティックな部分で発言させていただきたい。1点目は、ミッションに出てくるライフイノベーションという言葉についてだが、この言葉がビジョンのキャッチフレーズとか、キーコンセプトだとすると、学長が発言された熱い思いが、1ページのライフイノベーションにかかる部分からは伝わってこない。そして、ビジョンにあるライフイノベーションという言葉は、通常よく使われるような言葉の意味より、コンセプトとしては広い意味を持つとの説明だが、そのことが欄外の脚注に小さい字でかかれており、本文中に丁寧に書き込む必要があると思う。2点目は、なるべくカタカナ用語は使わないとのことだが、まだ多いと感じているし、漢字で書かれている言葉にしても、大学の関係者は理解できるとしても、自分としてはわからない言葉が多くあると思う。学内の方が10年後のビジョンを共有することは大切だが、あわせて、大学の様々なステークホルダーの方に大学が目指している方向を理解していただくための文章だと思うので、一般の方にわかる言葉使いにさせていただきたい。3点目は、目次の部分になるが、自分の理解としては、教育・学生支援ビジョン、研究ビジョンの次に附属病院ビジョンが来ると思う。教育・学生支援、研究、附属病院のビジョンは、大学が担っている3つの大きな領域になり、この3つの領域に共通する問題として、産学・地域連携、国際連携、経営・組織改革のビジョンになると思う。

- ・今後、学生や新潟市等と将来ビジョンについての対話を行うが、企業との対話についても

いただいたご意見を整理し、役員と共有をはかっているところである。本日いただいたご意見は、いままで対話を行ってきた外部のステークホルダーのご意見と類似していると感じており、背中を押されていると受け止めている。新潟大学は「こうなります」との言葉で統一して、ビジョンの作成を進めていくが、留学生を含む学生が、自然に言葉も宗教もジェンダーも超えて話し合う空間や、これだけオンラインが進み、良い授業がオンラインでできる中で、新潟大学のキャンパスに来て、実際に楽しそうに研究をしている教員に出会い、感化され、授業で学んだものを実践できる場として、新潟大学を選ぶ理由を見えるようにしていくことが、今回のビジョンだと思う。色々な変化を受け止められる新潟大学という形を内容に付け加えていきたいと思う。

6 報告事項

(1) 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果（確定）について

澤村理事から、令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果（確定）について、資料4に基づき、報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，■：本学側の発言]

- ・資料の3ページに項目別評価における評点があるが、令和元年度は、4項目を加算すると18点となり、指定国立大学法人を除く評価としては、最高点に属しており、非常にうまく業務面ができたと思っている。平成16年以降同じような項目で評価を受けているが、今回が一番高くなっている。
- ・非常に高い評価を受けたとのことで敬意を表す。令和元年度における評価結果とのことで、特筆すべき点、注目すべき点が資料の10ページ以降にあるが、ここに記載されることは、非常にインパクトがある。現在取り組んでいる日本酒学とか佐渡のフィールドワークとか新潟大学らしいユニークな活動をアピールすると非常に価値があると思うが、どのように考えているか。
- ・中間評価の報告書には、盛り込んでいるが、今回は令和元年度の評価であるので、決まった様式の中で記載し、資料のようになっている。委員の仰るとおり、できるだけアピールしていきたいと考えている。

(2) 第4期中期目標期間における国立大学法人の中期目標・中期計画の策定に向けて

澤村理事から第4期中期目標期間における国立大学法人の中期目標・中期計画の策定に向けて、資料5に基づき、報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言，■：本学側の発言]

- ・今までは、来る人を入学試験で落とすという選ぶ立場であったが、これからは自ら外に出て欲しい人材をとってくる戦略展開を早めに行った方がよいと思う。良い高校との関係、良い学生の集め方といったリクルートの中期的な戦略を中期計画に盛り込んで欲しい。また、大学として、脱炭素への取組についても、中期計画において、少しでも明確に盛り込むべきだと思う。
- ・入試については、小さな専攻ごとの入試が残っており、この部分に関しては大括りの入試に変更して、優秀な学生をとっていかなければ、受験者にとっても魅力を感じないと考えている。その取組については、将来ビジョンに含めて、高等学校とやり取りを行って調査しているので、十分に注意して取り組んでいきたい。環境の件については、Times Higher Educationの「THE 大学インパクトランキング」に参加しており、ここに参加することにより、新潟大学は、SDGsのどこに貢献できるかがわかってきているので、その視点を入れて取り組んでいきたい。
- ・一括入試に関しては、総合大学とは何かとか、総合大学の新しいあり方とかを新潟大学で定義しなければならないし、改組にもつながってくると思う。戦略的に大学の考えをまとめながら、全国の高校生にPRしたいと思っている。
- ・国立大学法人の組織及び業務全般の見直しや求められる役割や機能に関する基本的事項を検討するとの大きな流れがあるが、これからの非常に厳しい時代の中で生き残っていくためにも、組織の横の流れをスムーズにしていかなければならないと思う。スムーズな組織運営をするためにも組織の壁をいかに解消していくかが求められるので、この点も意識して検討を進めていって欲しい。

(3) 令和2年度補正予算案及び令和3年度当初予算案について

川端理事から令和2年度補正予算案及び令和3年度当初予算案について、資料6に基づき、報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言， ■：本学側の発言]

※意見，質問なし

(4) 令和2年度予算執行状況等について（第3四半期終了時点）

(5) 令和2年度資金運用状況について

川端理事，富田特命理事及び池田財務部長から令和2年度予算執行状況等について（第3四半期終了時点）及び令和2年度資金運用状況について、資料7，資料8に基づき、報告があった。

[主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言， ■：本学側の発言]

- ・イレギュラーな出来事がある中で、うまくマネジメントされていると思う。1点伺うが、新型コロナの影響で授業料が払えないとか、海外から来日できないとかにかかる収入減が発生しているのか伺いたい。
- ・授業料に関しては、早めに授業料免除等の対応を行ったが、そこについては、国からの補助金もあり、大きな影響はない。また、授業料の延納も行っており、払いやすい環境にしている。また、留学生に関しては、来日した場合の感染防止にかかる待機費用の補助等での支出はあったが、影響がない範囲で収まっている。
- ・困窮している学生に関しては、緊急支援パッケージを設けて、新潟大学基金を活用している。
- ・大学病院としては、現在コロナ患者を受け入れていないとのことだが、これから新潟県内に拡散した場合、色々な病院が受け入れてくると受皿が減ってくると思うが、そうなると大学病院に波及、影響する事が出てくると思う。もし、今後新潟県内で拡散してきた場合、新潟大学としての対応は、支出も含めて何かあるか。

- ・新潟県内では、県内全体の病院間での役割分担を決めており、医歯学総合病院の基本的な姿勢としては、大学病院でなければ対応できない患者を受け入れることとしている。また、体外式膜型人工肺（ECMO）が必要となった場合、対応することとしている。

- ・リモートでの会議が続いており、集まれる機会があれば、顔を見ながら率直な意見交換を行いたいと思っているが、先般行われた新潟市の成人式について、この時期に開催してしまったことは、本当に遺憾なことだと思う。対象となる学生がいる大学にもしっかりと情報発信して欲しい。また、最後に学長の私見で結構だが、今後のコロナの見通しをお伺いしたい。

- ・成人式については、開催するとのことがわかった時点で、成人式はオンラインでも開催しているので、十分に状況を見定めるようにと、ホームページとメールにて、学生へ注意喚起を行ったところである。また、私見だが、今後の見通しについては、すぐに感染者が減るような状況にはないと思っており、今後、感染者が増大するかは微妙なところだが、この状況が続けば、横ばいの状況で3月まで続くのではないかと考えている。このような状況が続くと予想しているので、卒業式と入学式は、朱鷺メッセを利用せず、オンラインを利用しての形を検討している。